

謹

賀新年

明けましておめでとうございます。

昨年は、療考会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆様にとって、穏やかで実りある一年となりますようお祈り申し上げます。



療考会ニュース1月号

知能検査について



発達検査：運動発達、社会性やコミュニケーションなどを含む全般的な発達具合を確認するための検査。

知能検査：知能指数(IQ)がどれくらいあるかを測る検査。



知能検査：WISC-V（ウィスクファイブ）

この検査は以下の5つの指標(主要指標)をもとに、子どもの得意・不得意の傾向をより細かく分析する。その子にどのように関われば良いか、どのようなところを伸ばすと良いのかなどを知ることが目的。

対象：5歳～16歳

所要時間：60分～90分

✓ 言語理解：主に言葉の理解、言葉でのやり取りの力を測るもの。



相手の話を理解することや、自分の考えを表現することが苦手。
抽象的な概念の理解が難しい。
文章を読み解く力が弱い。

✓ 視空間：目で見えて、空間的な奥行きや角度、色や遠近感、視覚で部分的あるいは全体的に情報をイメージしたり把握したりする能力を測る。



図形やパターンの認識が苦手。
学校の授業で黒板や教科書を見て的確な情報の把握が難しい。
集団活動の状況判断が苦手。

✓ 流動性推理：新たな場面で推理や推測をしたり、合理的な行動ができるかを図る。蓄積された知識ではなく、その場の状況に応じられるかどうかを測る。



教室や職場での新たな場面に適応しにくい。
大まかな指示だと、推理して行動することが難しい。
「よく考えて行動しなさい」と言われてしまうことがある。

✓ ワーキングメモリー：見たり聞いたりしたことを記憶に一時的に保存しておくこと。短期記憶能力を測る（長期記憶とは区別される）。



新しい仕事のやり方や数学の公式などを一時的に覚え、使うことが苦手。
口頭指示を忘れてしまう。
⇒自尊心の低下など二次的な問題に繋がりがやすい。

🍀 処理速度：作業を処理するスピードを測る。



板書に時間がかかる。
集中力が途切れやすい。
テストや課題が時間内に終わらない。

検査結果：全体のIQと5つの指標得点が算出される。



じゃあ、
どうしたら
いいの？

参考程度ですが、各指標が低い
場合に考えられる対策について
紹介します！

- ◆ 言語理解…図や写真、絵で視覚化する。
- ◆ 視空間…視覚情報はシンプルかつ言葉で補う。
一度にたくさん言わない・見せない。
- ◆ 流動性推理…行動の仕方や見通しをあらかじめ
伝えておく。
- ◆ ワーキングメモリー：メモ帳やタブレットを持
ち、指示されたことを記録する。
- ◆ 処理速度：時間に余裕を持たせる課題にする。
視覚的補助教材の使用。

知能検査：KABC-II

知能検査の中で唯一、学習習得度の評価を取り入れ、得意・不得意を数値化してくれる検査。数値で見ることで、どこでつまづいているのかが分かり、どんな勉強方法が合っているのかが考えやすくなる。

対象：2歳6ヶ月～18歳11ヶ月。

所要時間：30分～2時間。

年齢によって実施する時間が変わる。



KABC-IIでは大きく分けて「認知検査」(認知処理能力)と「習得検査」(基礎学力)を測ることができる。

それぞれの尺度でIQ値(平均100)で表示される。

認知検査

継次処理

同時処理

学習尺度

計画尺度

習得検査

語彙尺度

読み尺度

書き尺度

算数尺度



認知検査

新たな刺激や状況をどのように理解するか、脳の働き方の特徴・個性を明らかにするもの。



継次処理：情報を順番に処理する能力。
(例)指示を順番通りに実行する。



同時処理：目で見た情報をまとめて、全体として捉える能力。
イラストや図を一目見て理解できるかどうか。



どちらが優位かでその子へのアプローチ方法が変わります

「継次処理」優位タイプ

目的地までの道順を聞くとき…

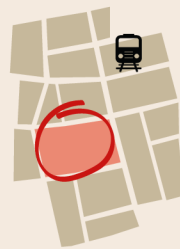
1. 出口を右折します
2. 次の交差点を左折します
3. 右側の2件目が目的地です



順番に説明されると
理解しやすい

「同時処理」優位タイプ

目的地までの道順を聞くとき…



地図を見てください。
「ここが駅で、ここが
目的地です。」
(道順は特に教えない)



視覚的に全体をイメ
ージできると理解し
やすい



計画尺度：物事を予測して推論したり、見通したりする能力のこと。計画を立てる(見通しをつける)能力のこと。

この能力が低いと…(例)新しい場面で次に何が起こるか予測が難しい。
計画的に準備が出来ず、忘れ物が多い。



学習尺度：新しい物事に対して見たこと、聞いたことをマッチングさせて記憶したり、覚えたりする能力のこと。新しいことを覚えることが得意な子もいれば、苦手な子もいる。その程度を算出したもの。

習得検査

下記の4つから基礎的な学習など習得に関わる検査。



語彙：ボキャブラリー量のこと。日常生活の中で語彙がどれだけ定着しているかを測る。



読み：ひらがな、カタカナ、漢字が読めるかを測る。文や文章の理解力も含まれる。



書き：ひらがな、カタカナ、漢字を書く能力のほか、文を書く・構成する能力を測る。



算数：加減乗除や学年に応じた方程式などの「計算」を測る能力と文章題が解けるかを測る。



知能検査：田中ビネー知能検査Ⅴ

子どもの知的側面の発達状態を客観的に捉えるための検査の1つ。
多くは医学的診断や福祉サービス(療育手帳など)、就学相談、発達相談の場で活用される。

対象：2歳～成人と幅広い。

所要時間：子どもの能力によって異なるが、30分～90分程度。



検査の進め方



1. 全問正解できる年齢級を探す。

(例) 4歳の子どもが3歳級から開始し、1問でも間違えたら、さらに下の2歳級を実施。2歳級が全問正解なら、そこが基準となる。

2. 次に全問不正解になるレベルまで上へ進める。

3. 子どもがどのレベルまでの課題をクリアできるか測定する。

様々な問題がミックスされており、言語・動作・記憶・知覚推理・構成・算数など様々な側面を調べる内容になる。



検査結果：WISC-VやKABC-II等とは異なり、結果はいくつかの指数に分けずに1つの知能指数で表現される。

$$IQ = \text{検査結果からでた年齢(精神年齢)} \div \text{生活年齢(実年齢)} \times 100$$

※これは2～13歳の児童の場合であり、14歳以降では算出方法が異なる。



2024年に田中ビネー知能検査Ⅵが出版されており、時代に合わせた問題などに改定されました！

参考文献：WISC-V、KABC-II 対応版 子どもの心理検査・知能検査

療考会役員より、WISC-Vの検査を受けての感想をいただきました！



検査は60分程度、親子分離での実施でした。
忘れ物がひどく、何度言っても筆箱やプリントを持って帰って来なかった長男は、聞いたことを覚えておき考えることが苦手という結果で、「なぜ忘れるんだ！」と私がモヤモヤしていた部分に納得がいきました。
得意な部分と苦手な部分がはっきりと数字で出るため、担任の先生に配慮して欲しい点を伝えるときや放課後等デイサービスを探す際の参考になりました。
(小2男児/普通級在籍)